

○第 6 3 回（令和 8 年 1 月 2 0 日）評価委員会評価

令和 7 年度は、6 月 1 4 日～1 7 日にかけて連携排砂が、8 月 1 1 日～1 3 日にかけて細砂通過放流が実施された。

出し平ダムからの排砂量は、目標排砂量約 3 5 万 m³に対し、約 3 3 万 m³となり、想定変動範囲の約 2 5 万 m³～4 4 万 m³の範囲内であった。

宇奈月ダムにおける連携排砂での土砂変動量は約 1 0 万 m³の減少であった。

◇環境調査結果について

今回の連携排砂および細砂通過放流に伴う環境調査の結果から次の知見が得られた。

□水質調査について

- ・各指標は概ね既往の観測値と同程度であった。
- ・ダム湛水池の 5 月調査において、宇奈月ダムの C O D が既往最大値を上回った。

□底質調査について

- ・各指標は概ね既往の観測値と同程度であった。
- ・海域の一部地点において、5 月調査の全リンおよび 9 月調査の硫化物が既往最大値を上回った。

□水生生物調査について

- ・確認された種数・個体数は概ね既往の変動の範囲内であった。
- ・河川における付着藻類の 5 月調査において、山彦橋のクロロフィル a が既往最小値を下回った。

以上の水質、底質および水生生物の環境調査結果をみる限り、一時的な環境の

変化はあるものの、連携排砂および細砂通過放流が周囲の環境に大きな影響を及ぼしたとは考えられない。引き続き調査結果を注視していくこと。

◇今後の留意点

□河川水質の長期トレンド把握について

- ・河川水質の長期的なトレンドについて整理、考察を行い、傾向を把握した。
引き続き、他の環境調査項目についても長期的なトレンドを整理し、傾向把握を行うこと。

□出し平ダム 排砂期間前における堆砂測定のスマート化検討について

- ・引き続き、スマート化の試行を継続し、様々な流量・流況においても精度が確保できるのか検討すること。また、更なるD X技術の活用に努めること。

□環境調査計画について

- ・アユの産卵床の調査については、河床軟度調査だけでなく、底質状況も把握すること。
- ・昨今の熊出没事象等も踏まえ、環境調査項目の合理化検討を引き続き実施すること。

以 上